

多発する水害や雪害、地震など自然災害、新型コロナウイルス感染等に対して、リスクマネジメント・マニュアルやBCP(事業継続計画)マニュアルを策定しています。また県内全17市町と災害時物資協力協定を締結し、大震災や豪雨による災害が発生した場合、協定に基づき物資支援に迅速に取り組めます。



東日本大震災支援活動の継続

被災地を支える

①12月福島の子どものための保養活動を行う、福井市自然体験交流推進協議会に食材支援を継続しました。

②福島ひまわり里親プロジェクトに大野きらめきが参加しました。
東日本大震災後、福島県の障がい者福祉施設で仕事ができなくなり、困っているのをなんとか助けたいと始まったプロジェクトです。大野きらめきでは、地域にも協力を呼びかけ、18名の方々が里親としてひまわりを育ててくださいました。



◀ひまわり里親プロジェクトの大野きらめき

被災地を忘れない・ボランティア活動を支える

岩手県陸前高田市の桜ライン311(植樹ボランティア活動)に対して、桜の苗木(5本)を寄付しました。



※現地の植樹の写真は2019年度の様子です。

BCP対策

大雪への備え 除雪車導入

平成30年豪雪と令和3年の豪雪を受けて、大雪への備えを強化しました。大型のホイールローダ(除雪車両)を、各地区本部に2台ずつ配備しました。これまで大雪時には、業者に委託して駐車場を除雪していましたが、自前で除雪ができるようになり、雪の日の組合員の駐車場の利用のしやすさや、配送拠点での対応力強化につながりました。



◀ホイールローダ(除雪車両)

ウクライナ緊急募金の取り組み

2022年2月末ロシアによるウクライナ侵攻を受け、ウクライナの子どもたちや難民のみなさんへの人道支援が必要と考え、ハーツと宅配で組合員の募金を呼びかけさせていただきました。組合員から寄せられた321万円を、日本ユニセフ協会に義援金としてお送りしました。

同時に役職員で取り組んだ募金50万円と、県民生協からの拠出金50万円、合計100万円を中川専務理事より日本赤十字社福井県支部に義援金として贈呈しました。



▲日本赤十字社福井県支部への贈呈



▲店頭のウクライナ緊急基金

※新型コロナウイルス対策についてはP29に掲載